

弘前・岩木健康増進プロジェクト

歩行能力もテスト

13年目開始

弘前市岩木地区の住民を対象に、弘前大学などが取り組む「岩木健康増進プロジェクト」の本年度の健康調査が27日、同市岩木文化

センターあそべーるなどで始まった。短命県返上に向け、6月5日まで地区住民約1200人がさまざまな検査を受ける。



2歩分の歩幅を測定する2ステップテストを行う参加者

同プロジェクトは今回で13年目。健診で得た2千項目に及ぶ調査データは、病気の予兆を見つける画期的な方法や予防法などの確立を目指す国家的な研究プログラム「COI(革新的イノベーション)

創出プログラム」に活用される。

調査は問診や身体計測、体脂肪や筋肉量など体組成検査、認知症検査や身体機能検査など多岐に及ぶ。今年からは歩行能力テストなども加わった。早朝から会場を訪れた地区住民たちは、同大医学部の医師や学

生らの指示に従って次々と検査を受けていた。

同大COI研究推進機構の村下公一教授は「短命県返上とともに、得られた知見をベースに健康医療の産業創出に貢献すること、経済活性化にもつながる」と意義を説明した。

(三浦康平)